

～ 健口と輝く笑顔のために～ ASSOCIATION 歯科衛生だより 会報

2025 December vol. **90** 発行人／武藤 智美 発行／公益社団法人 日本歯科衛生士会 〒169-0072 東京都新宿区大久保2-11-19
TEL.03(3209)8020 FAX.03(3209)8023 <https://www.jdha.or.jp/>

日本デンタルショー2025 出展報告

2025年9月26日(金)から28日(日)の3日間、神奈川県・パシフィコ横浜において、一般社団法人日本歯科商工協会主催「日本デンタルショー2025」が盛大に開催された。会場には全国各地から歯科関係者や学生が来場し、歯科の「今」と「未来」を感じられる多彩な企画が展開された。このイベントにおいて日本歯科衛生士会は初めて「つながる、広がる歯科衛生士の未来!」をテーマに多くの皆さまに本会の活動を知っていただく貴重な機会をいただいた。



会期中は延べ60名を超える会員がボランティアとして協力し、日本歯科衛生士会の赤い“半被”を身にまとい、笑顔で来場者をお迎えした。会員の力が結集したことで、3日間を通して明るく和やか雰囲気の中、ブースを運営することができた。

この出展を通じて、歯科衛生士の専門性と活動領域の幅広さを発信し、より多くの方々に職能団体としての存在を知っていただくきっかけとなった。さらに「口腔戦士デンタマン」の登場や来場者との交流もあり、笑顔にあふれる賑やかな雰囲気に包まれた。

本会ブースでは連日、トークショー、体験コーナーではプロービング体験や高齢者の口腔ケア体験、そして相談・広報コーナー、Instagram・夢コーナーが設けられた。



トークショーでは、「歯科衛生士の魅力」「キャリアの広がり」「世界で活躍する可能性」「学生に向けた学びの工夫」などといった内容で多岐にわたり、来場者の関心を大いに集めた。これまで先輩方が築いてきた歴史を振り返りながら、今後の展望を情

熱的に語られる場面もあり、歯科衛生士としての誇りと可能性が力強く伝えられた。会場はいずれも満席に近く、立ち見が出るほどの盛況ぶりで、参加者が真剣な眼差しで耳を傾ける姿が印象的だった。「自分も頑張りたい」「この仕事を誇りに思う」といった感想が多く寄せられ、未来へつながる大きな励ましの場となった。

学べる◆ プロービング体験コーナー

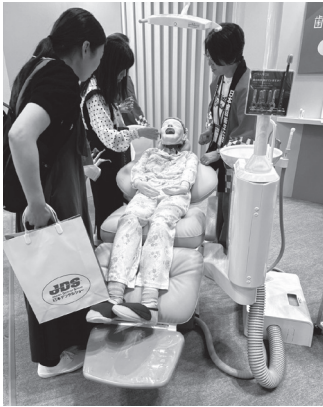
シンプルマネキンを用いた歯周ポケット測定体験では、参加者が実際にプロービング値を測定・記録。その後、正解と照らし合わせながら確認を行った。

学生や新人歯科衛生士だけでなく、ベテラン歯科衛生士まで多くの方が参加し、熱心に挑戦する姿も見られた。体験を通じて「改めて基本の大切さを感じた」といった声が寄せられた。



実際に触れて学べる◆ 高齢者の口腔ケア体験コーナー

ニッシン社の口腔周辺器官シミュレーター「MANABOT®」とヨシダ社のユニットを活用し、高齢者の口腔ケアを実践的に体験できるコーナーも設けられた。



動揺歯や欠損歯、咽頭部まで再現された模型を用い、実際に清掃を行うことで、学生や若手歯科衛生士にとって現場さながらの学びの機会となった。

さらに、機器メーカーの担当者から「現場の意見を参考に製品開発につなげたい」との声もあり、産業界と専門職との新たな交流のきっかけにもなった。

相談・広報コーナー

ブース内にはパソコンを設置し、本会のウェブサイトを閲覧しながら自由に相談できるスペースが用意された。相談者は少数ながらも熱心で、資格取得や復職支援、研修制度に関する質問が多く寄せられた。

また、入会案内パンフレットや会報、学生だよりなどを配布し、「入会したい」「学生会員になるには？」といった具体的な質問も多く受けた。

さらに、全国に5箇所ある歯科衛生士の復職支援・離職防止技術修練研修センターの活動紹介をパネル掲示し、ブースを訪れた方が多様な取り組みを一度に知ることができる構成とした。こうした広報活動を通じて、職能団体としての信頼と関心の高まりを実感することができた。



Instagram・夢コーナー

来場者の参加型企画として「夢コーナー」を設け、訪れた方が付箋に将来の夢やメッセージを書いて掲示できるスペースが設置された。

「国家試験に合格する」「地域で活躍できる歯科衛生士になる」「男性歯科衛生士がもっと増えてほしい」「歯科衛生士のつながりを広げたい」など、前向きな言葉が並び、カラフルな夢の掲示板が完成した。また、仲間と一

緒に撮影できるフォトフレームを用意し、笑顔で記念撮影を楽しむ姿が多く見られた。さらに、公式Instagramへの二次元コードも掲示し、SNSを通じた情報発信や交流へとつなげられた。

会場全体が温かい空気に包まれ、学生や歯科衛生士が夢や目標を語り合う光景は非常に印象的だった。

本会ブースは再入場口の右手という立地上、やや足を止めにくい位置ではあったが、初日は学生が多く、2日目は学生と歯科衛生士がほぼ半々、最終日は歯科衛生士が約7割を占める来場傾向であった。トークショーや体験コーナーを中心に多くの方が足を運んでくださり、想定を上回る反響だった。

来場者からは「歯科衛生士としての誇りを再確認できた」「学生時代にこうした機会がもっと欲しい」「歯科衛生士コーナーがあってよかった」といった前向きな声が寄せられた。「日本デンタルショー2025」で得た出会いと学びは、今後の活動への大きな励みとなった。これからも、歯科衛生士としての専門性に誇りを持ち、その価値を社会へ発信していくとともに、次世代を担う人材の育成や地域社会への貢献に一層力を注ぎ、誰もがいきいきと活躍できる環境づくりに努めていきたい。

今回の出展に際し、ご協力くださった会員をはじめ、温かいご支援を寄せてくださった皆さま、そして会場に足を運んでくださった来場者の皆さまに、心より感謝申し上げます。

(公益社団法人日本歯科衛生士会 組織委員会 柴田 久美)



International Symposium on Dental Hygiene 2026 2026歯科衛生国際シンポジウムのご案内

※詳細は<https://www.isdh2026.com/>を
ご参照ください

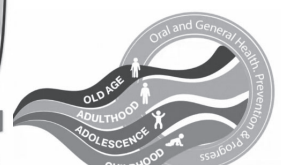


情報が更新されました

2026年7月9日(木)～11日(土) ミラノ、イタリア

テーマ Oral and General Health～Prevention & Progress～
口腔と全身の健康～予防と進展～

主な日程 参加登録(早期) 2025年9月15日～2026年3月30日
演題募集 2025年9月19日～2026年1月 7日
※いずれもイタリア時間(JST-8)



「こども霞が関見学デー」報告

2025年8月6日(水)・7日(木)に「こども霞が関見学デー」が開催された。このイベントは、文部科学省が中心となり、子どもたちが親子のふれ合いを深め、広く社会や国の業務について理解を得るための体験学習の機会を提供するものである。



本会は、厚生労働省歯科保健課内のブースにて、「健康はお口から」をテーマに、「お口の力だめしゲーム!」「かむ力・歯ならびを測ってみよう!」「お口の菌をみてみよう!」「お口の健康を守るアイテム紹介(おみやげ付き)」などの体験プログラムを提供した。

当日は、「日本歯科衛生士会」の名前の入った赤い法被^{はっぴ}を準備し、夏祭りを思わせる演出をした。「お口の力だめしゲーム!」では、金魚のイラストをストローで吸い上げる「金魚すくい」のコーナーと、吹き矢で紙コップの的を倒す「吹き矢ゲーム」を行った。

「かむ力・歯ならびを測ってみよう!」は、噛む力をきたえる「噛もっと! グミ」を使用した噛む力の測定をし、歯ならび



はスマートフォンを使った「AI歯ならびチェック」を行った。「お口の菌をみてみよう!」は、唾液やプラークを採取し、スマートフォンの画面でお口の細菌を見ることができる「mil-kin(見る菌:ミルキン)」を使用した。このふたつのコーナーは、常に長蛇の列

ができており、口腔への関心の高さを伺うことができた。

「お口の健康を守るアイテム紹介」では、フッ化物洗口液の使い方の紹介と、お口の健康を守るグッズのおみやげを提供した。参加者にはそれぞれ、好きなおみやげを選んでもらったが、皆、自身には何が必要か、家族には何がよいかなど真剣に考えて選んでいる様子がみられた。

小学生の参加者が多く、皆、元気いっぱい積極的に金魚すくいや吹き矢のゲームに参加していた。はじめはうまくできないこともあったが、少し練習すると上達し、目標を達成していたため、楽しくお口の機能の大切さを学ぶ機会となったのではないと思う。

また、小さなお子さんを連れた親子での参加者もたくさん来場されていた。お子さんのお口への関心を深め、また、ご自身のお口にも関心を得る機会となったことと思われる。



連日、35℃を超える猛暑日となったが、予想をはるかに超える大盛況で、用意した金魚のイラストやストローが足りなくなり、2日目に備えて追加したほどだった。最後にアンケートをお願いしたところ、624人の方々にご協力をいただいた。

今回の「こども霞が関見学デー」を機に、子どもたちの口腔の健康への関心がさらに高まることと併せて、歯科衛生士という職能を知ってもらうきっかけにもなったのではないかと期待している。

謝辞:今回使用した機器やグッズは、日本歯磨工業会をはじめ、ライオン株式会社、サンスター株式会社、花王株式会社、JNTLコンシューマーヘルス株式会社など企業各社に多大なるご協力をいただきました。心より御礼申し上げます。

(公益社団法人日本歯科衛生士会 副会長 石川 奈保美)

令和5年度「研修指導者・臨床実地指導者等講習会」 修了者アンケート結果報告

日本歯科衛生士会では、新人歯科衛生士が基本的な臨床実践能力を獲得し、離職を防止すること、さらに育児や介護などにより一時的に離職した歯科衛生士の復職を支援することを目的として、平成29年度より厚生労働省委託事業「歯科衛生士の研修指導者・臨床実地指導者等講習会」を開催している。本講習会は、地域における歯科衛生士の指導体制を確保することを目的としており、研修指導者や臨床実地指導者など、地域で中核的な役割を担う人材の育成を目指している。

令和2年度からは新型コロナウイルス感染症の影響により、開催形式を年4回のオンラインに変更した。研修プログラムは、オンデマンド型の事前研修と2日間のオンラインワークショップで構成されている。内容は、カリキュラムプランニング、労働法規に関する基礎知識、組織における人材育成および勤務環境改善マネジメントの考え方、そして歯科衛生士研修の計画立案・実施・評価に関する基本的な知識、技能、態度の習得を含んでいる。

修了者アンケートについて

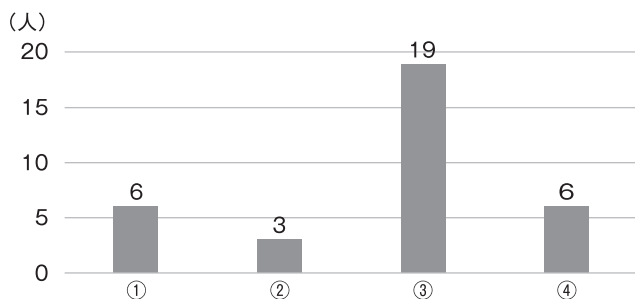
本講習会修了者を対象に、地域における人材確保や復職支援につながる活動の実施状況を把握するため、講習会の1年後にアンケート調査を実施している。今回の調査は、令和5年度に開催された講習会の修了者を対象に、令和6年度に実施したものである。令和5年度の講習会は年4回開催され、受講者数は計86人であった。アンケートの回答者は32人であり、回収率は37.2%であった。

調査内容は、現在の所属状況、地域での人材確保や復職支援に関する事業の実施状況およびその内容、共通ガイドラインの活用状況、人材確保や復職支援に関する課題、講習会修了後の参加者間の交流の有無など、計10項目にわたった。本頁ではその一部を紹介する。

アンケートの結果(令和5年度)

1. 所属について

1 現在のご所属について、当てはまるものを選んでください。(複数回答可)

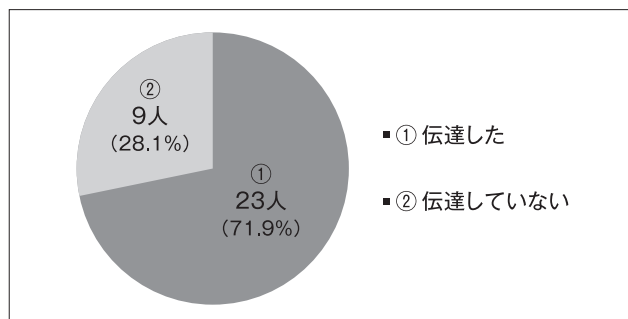


- ① 都道府県歯科衛生士会等において研修事業の企画運営を担当する者
② 歯科衛生士学校養成所の専任教員、実習指導員
③ 臨床実習施設等(歯科診療所、病院等)において、研修生・実習生の指導を行っている者
④ ③のほか、臨床実習施設等(介護保険施設、行政等)において研修生・実習生の指導を行っている者

回答者の所属は①が6人(18.8%)、②が3人(9.4%)、③が19人(59.4%)、④が6人(18.8%)と、「③ 臨床実習施設等(歯科診療所、病院等)において、研修生・実習生の指導を行っている者」が最も多かった。

2. 講習会の内容を職場へ伝達したかについて

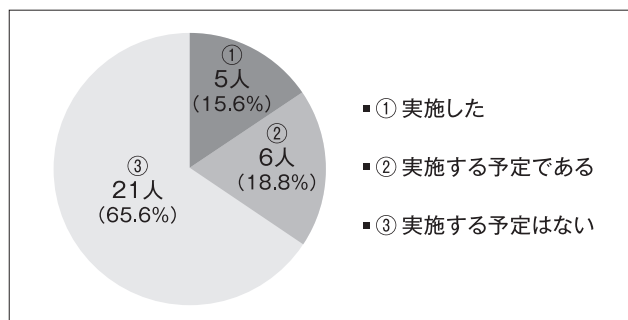
2 講習会の内容を職場へ伝達しましたか？



受講後、職場で講習会の内容を伝達したかについて、「①伝達した」が23人(71.9%)、「②伝達していない」が9人(28.1%)であった。回答者の多くが講習会の内容を職場に伝えていた。

3. 受講後に職場や地域で人材確保や復職支援につながる事業を企画または実施したかについて

3 受講後に職場や地域で人材確保や復職支援につながる事業を企画または実施しましたか？

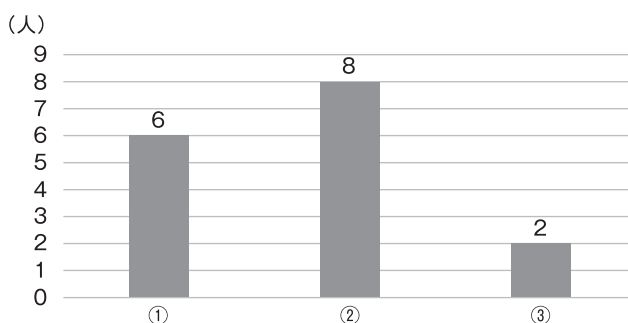


受講後、職場や地域で人材確保や復職支援につながる事業を「①実施した」が5人(15.6%)、「②実施する予定である」が6人(18.8%)、「③実施する予定はない」が21人(65.6%)であった。事業実施に取り組んでいる者は11人と、回答者の半数に満たなかった。

4. 実施または実施予定の職場や地域で人材確保や復職支援につながる事業内容について

1) 事業について

4-1 3で①②と回答した方へ伺います。どのような事業ですか？(複数回答可)

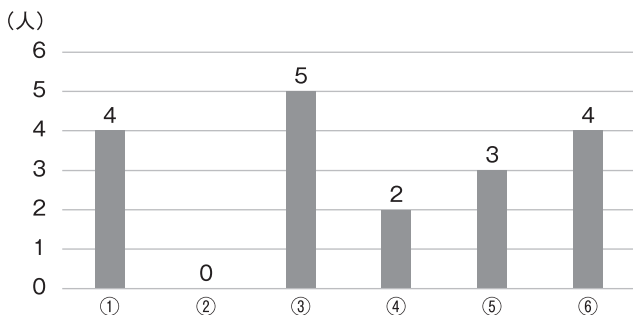


- ① 復職支援に関わる事業
② 新人育成・離職防止に関わる事業
③ 指導者育成に関わる事業

取り組んでいる事業としては、①が6人、②が8人、③が2人であり、「② 新人育成・離職防止に関わる事業」が最も回答が多かった。

2) 事業の内容について

4-2 何を企画・実施する予定、もしくはしましたか？ (複数回答可)

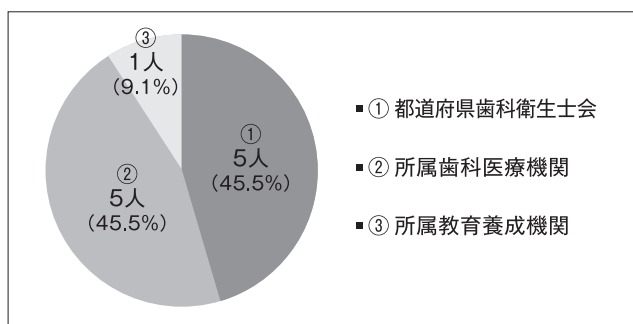


- ① 人材確保に関する調査
- ② 技術研修を行える施設の確保
- ③ 研修(座学・講義型)
- ④ 研修(対話・経験型)
- ⑤ 未就業者の掘り起こし
- ⑥ 未就業者と地域歯科医院とのマッチング

企画・実施する予定または実施した具体的な事業内容は、①が4人、②が0人、③が5人、④が2人、⑤が3人、⑥が4人であった。「③ 研修(座学・講義型)」が最も回答が多かった。

3) 事業の主催機関について

4-3 それはどこが主催で行う予定、もしくは行いましたか？

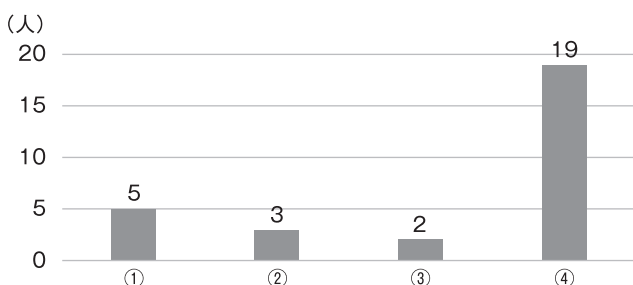


- ① 都道府県歯科衛生士会
- ② 所属歯科医療機関
- ③ 所属教育養成機関

事業を主催するのは、①が5人(45.5%)、②も同数の5人(45.5%)であり、「① 都道府県歯科衛生士会」と「② 所属歯科医療機関」が最も多い回答であった。また、③が1人(9.1%)であった。

4) 事業を実施しない理由について

4-4 3で「③実施する予定はない」と回答した方へ伺います。 その理由は何ですか？(複数回答可)



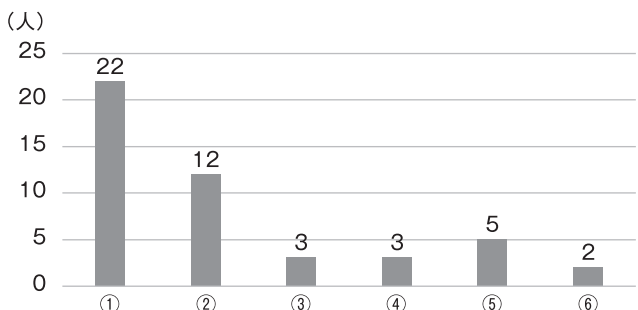
- ① 協働する人がいない
- ② 職場などで理解が得られない

- ③ 自信がない
- ④ 機会がない

事業を実施する予定がない理由は、①が5人、②が3人、③が2人、④が19人であった。最も多かったのは「④ 機会がない」であり、大半の者がこの理由を挙げていた。

5. 講習会後、どのような効果が出ているかについて

5 今回の講習会後、どのような効果が出ていますか？ (複数回答可)

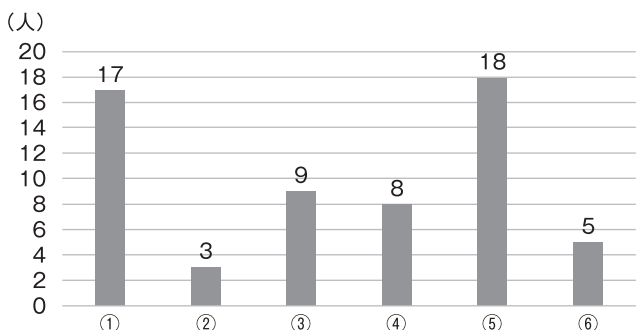


- ① 指導者としての意欲が向上した
- ② 指導者としてのスキルが向上した
- ③ スタッフ全員で新人や再就業歯科衛生士の育成にかかわるようになった
- ④ 他の組織と協力して人材確保・復職支援に取り組むようになった
- ⑤ 新人もしくは再就業歯科衛生士の仕事に対する意欲が向上した
- ⑥ 新人もしくは再就業歯科衛生士の仕事に対するスキルが向上した

講習会の受講により得られた効果としては、①が22人と最も多く、次いで②が12人であった。また、③が3人、④が3人、⑤が5人、⑥が2人であった。

6. 現在の人材確保や復職支援の課題について

6 現在の人材確保や復職支援の課題は何だと思いますか？ (複数回答可)



- ① 復職を希望する歯科衛生士の連絡先、連絡方法がわからない
- ② OJT(On the Job Training)のやり方がわからない
- ③ 新人・再就業復職希望者の技術支援研修の企画が立てられない
- ④ 就職先の求める人材像が明確でない
- ⑤ 就業先に指導体制がない
- ⑥ 指導できる人がいない

人材確保や復職支援の課題については、①が17人、②が3人、③が9人、④が8人、⑤が18人、⑥が5人であった。「⑤ 就業先に指導体制がない」と「① 復職を希望する歯科衛生士の連絡先、連絡方法がわからない」がいずれも多くの回答を集めた。

考察

本講習会修了者へのアンケート結果からは、講習会の受講により「指導者としての意欲やスキルの向上」が一定程度見られたことが明らかとなった。一方で、人材確保や復職支援の取り組みは一部にとどまり、「就業先の指導体制の不備」や「復職希望者への連絡手段の欠如」など、現場における課題も多く挙げられた。今後は、協力体制の構築や指導機会の創出が重要な課題になると考えられる。これらの状況を踏まえ、今後の講習会の企画・運営に活かしていきたい。

(公益社団法人日本歯科衛生士会 指導者等講習会企画運営委員会 尾形 祐己)

活躍する
認定
歯科衛生士

期待に応えられる歯科衛生士を目指して

愛知県歯科衛生士会 安城更生病院
認定分野A医科歯科連携・口腔機能管理
認定歯科衛生士 石本 多実

24歳のときに父が事故に遭い、障害を負いました。入院中に父や私たち家族を支えてくれたのは看護師やリハビリ各職種の方々でした。ある日看護師に「娘さんはお仕事何されているのですか？」と聞かれ、歯科衛生士と答えたところ、「え！ 歯科衛生士さんなの？ すごーい！」と言われました。私はその時、初めて、歯科衛生士は看護師にすごいと思われていることを認識しました。それまで『私は全然すごくない』と思っていましたが、徐々に気持ちに変化がでてきて、『看護師やリハビリの職種の方々のように誇りをもって働きたい。患者と関わりたい。』と思うようになりました。



『知識や技術がないと患者に自信を持って関わることはできない。もっと勉強したい。』と思い、歯科衛生士会に入会し、研修会を受講するようになりました。また、当時勤務していた歯科医院が訪問歯科診療を始め、多職種連携の必要性や、全身疾患に配慮した口腔健康管理が必要であることを実感するようになりました。

『もっと他職種と関われるようになりたい。全身状態をみることができるようになりたい。』と思っていたところ、現在の勤務先である急性期病院に歯科口腔外科が開設されることを知り、思い切って転職することにしました。

病院での勤務経験はなく、病院に勤務する歯科衛生士の知り合いもいませんでした。新規開設で歯科衛生士の先輩がいない状況で手探りの毎日でした。そんな中、愛知県歯科衛生士会病院歯科保健委員会主催の病院歯科衛生士連絡協議会に参加したところ、専門的口腔ケア対応人材育成研修を勧められ、受講することになりました。

専門的口腔ケア対応人材育成研修は、1年を通して座学の研修と臨地実習を組み合わせた愛知県歯科衛生士会独自の卒後研修プログラムです。修了式では臨地実習で関わった患者の症例報告を行いました。この研修を通して、私は病院歯科衛生士としての基礎を身に着けることができました。また、他の病院に勤務する歯科衛生士とのつながりをつくる機会にもなりました。

1年間研修を受けたことで受講者基準を満たし、認定分野A医科歯科連携・口腔機能管理の認定資格を取得しました。また、勤務先が歯科衛生士養成校の実習先であり、認定分野C研修指導者・臨床実地指導者の認定資格も取得しました。

当院では昨年度から職員が認定資格の取得や更新をした際に申請できる資格支援制度が開始となり、各職種の知識・技能の向上に対する期待が高まっています。認定資格を取得していることは、専門職として研鑽を積んでいることを示す根拠となります。また、患者向けの院内企画への協力依頼や、広報誌の執筆依頼、医療チーム活動にも参加しており、自信をもって歯科衛生士の専門性をアピールしています。さらに、認定資格は、勤続年数が長いからではなく、同僚の歯科衛生士を指導する立場である根拠になっています。

また、愛知県歯科衛生士会では研修会の講師や、専門的口腔ケア対応人材育成研修の指導者として活動しています。これも認定資格を取得していることが選定の根拠となっています。

ありがたいことに他の職種や患者から、「石本さんと出会って、歯科衛生士さんはただお口のお掃除をしているのではなくて、感染管理として重要な関わりをしてくれていることがわかりました。」「歯科衛生士さんってすごく素敵なお仕事ね。」など歯科衛生士冥利につきのお言葉をいただくことがあります。『少しは認めていただける歯科衛生士になったのかな。』と思うと同時にまだまだ頑張らなければ。と気を引き締める思いが沸き上がります。

勉強したいと思い始めたころは、ただ研修を受けるだけで満足していましたが、学んだ知識・技術を患者に還元しないと学ぶ意味がないと思うようになりました。現在では患者だけでなく、他職種や地域の歯科衛生士、学生にも自分が学んできたことを還元していくことが認定歯科衛生士に求められる役割ではないかと思っています。さまざまな方からの歯科衛生士に対する期待に応えられるように今後も活動していきたいと思います。



第28回感染症予防歯科衛生士講習会報告

本講習会は、歯科衛生士を対象に、最新の感染症動向や院内感染の予防管理対策ならびに歯科診療所における医療安全対策について学ぶ機会を提供することを目的として、日本歯科医師会との共催のもと毎年開催している。第28回となる今年度は和歌山県歯科衛生士会の協力のもとWeb開催とし、3名の講師による講演が行われた。各日程の定員(250名)を大幅に超える申込みがあり、全国から多数の歯科衛生士が受講した。なお、修了証は、歯科衛生士会Webサイトの会員ページ「修了証ダウンロード」より取得可能となっているため、受講者はご確認頂きたい。

講演1 「最新の感染症事情 口腔内に症状を表す感染症を中心として」



丸岡 豊 先生(国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター 歯科・口腔外科診療科長)

本講演では、近年再び流行がみられる梅毒を中心に、口腔内に症状を示す感染症について詳しく解説を頂いた。梅毒は「過去の病気」と思われがちだが、現在も年間1万例を超える報告が続いており、特に男性20～50代、女性20代が増加している。このような近年の流行状況の説明に加え、歯科領域にて注意すべき口腔内所見について、写真を交えつつわかりやすくご説明を頂いた。さらに、HIV感染者やウイルス性肝炎患者に対する歯科治療上の留意点についても言及され、歯科臨床における感染症対応の重要性が強調された。

講演2 「歯科における院内の感染予防管理」

野崎 剛徳 先生(大阪大学歯学部附属病院 口腔総合診療部 部長 一般歯科総合診療センター長)

本講演では、院内感染対策の法的背景や制度改正の動向を整理しつつ、歯科診療における感染管理の実践について解説を頂いた。平成19年の改正医療法以降、すべての医療機関に院内感染防止体制が義務づけられ、加えて歯科医療機関向けの指針や通知が相次いで示されてきた。さらに、診療報酬制度の加算や新興感染症に関する研修要件、令和6年の施設基準見直しなど、最新の制度改正にも触れられた。こうした社会的背景を踏まえ、日常診療で実践すべき感染予防・管理の具体的ポイントと、今後の輸入感染症や新興感染症のアウトブレイクに対応できるように具体的な方略をわかりやすく包括的に解説を頂いた。



講演3 「歯科医療安全入門 できることから始める事故防止と医療安全 —リスクマネジメントとチームの視点から—」



磯谷 一宏 先生(赤坂見附磯谷歯科室 院長)

本講演は、歯科医療現場におけるリスクや危険性について、様々な例を提示頂きながら、気づきを与えてくれる内容であった。歯科診療には医科にはない特有のリスクが存在するが、これらを「慣れ」として見過ごすのではなく、改めて認識し、予見・回避していくことが医療安全の第一歩であることを説明して頂いた。医療安全は、感染対策を含む幅広い領域におよび患者・医療者双方の安全を守りつつ診療の質を高める基盤となる。さらに、社会的背景や時代の要請により安全の基準は変化するため、チーム内での共通認識と情報共有を通じて院内に安全文化を築いていくことの重要性についてお話し頂いた。

なお、受講者から寄せられた質問と講師による回答は、日本歯科衛生士会Webサイトに後日掲載されており、受講者以外も閲覧可能である。(歯科衛生士の方へ → 研修・学習・認定 → 第5次生涯研修制度について(その他) ページ最下段を参照)

感染症対策や医療安全は、今後も歯科医療現場において継続的な学びと実践が求められる分野である。本講習会が、受講者の日常業務の質を高め、患者が安心して歯科医療を受けられる環境づくりに寄与することを期待したい。

(公益社団法人日本歯科衛生士会 生涯研修委員会)



歯科衛生臨床研究助成の紹介

本会では、国民の歯科口腔保健に寄与することを目的として、歯科衛生臨床研究助成を行っています。本研究は、株式会社YDM協賛による臨床研究テーマに基づく指定研究です。

下記に2024年度助成者の研究概要を紹介します(日本歯科衛生学会第20回学術大会口演発表O-1)。

2026年度研究助成の公募については2026年2月以降の「歯科衛生だより会報」およびウェブサイトに掲載の予定です。

20代女性における月経周期と口腔内環境の関連性

東京科学大学大学院医歯学総合研究科口腔健康教育学分野 鈴木 瞳

女性ホルモンは歯周組織に影響を及ぼすことが知られており、歯周炎患者において、排卵期に歯肉炎や揮発性硫黄化合物の増加が報告されている。しかし、性成熟期の健康な若年女性を対象に、月経周期が口腔健康に与える影響を調査した研究は少ない。本研究では、20代女性を対象に月経周期と口腔内の関連を調べ、女性ホルモンの影響について検討した。

対象は20代の健康女性19名で、月経期および排卵期に、安静時唾液量測定、歯周組織検査、プラークコントロールレコード(PCR)、多項目短時間唾液検査システムによる唾液測定に加え、自記式質問票による自覚症状調査を実施した。

その結果、排卵期には安静時唾液量は増加する傾向がみられ、「口の粘着き」の訴えも有意に減少した。また、排卵期に唾液

量が増加した群(n=10)ではPCR値が低下し、口腔衛生状態の改善が認められた。一方、歯周ポケット値は女性ホルモン分泌が高まる排卵期に増加し、特に唾液中白血球値が増加した群(n=9)で顕著であり、排卵期における歯周組織の局所的な炎症悪化の可能性が示された。口臭について、有意差は認められなかったが、排卵期に増悪する者が認められた。

良好な口腔健康状態の若年女性を対象とした本研究から、月経周期が安静時唾液量、歯周ポケット、口臭に影響を与える可能性が示された。今後は被験者数を増やし、多様な口腔状態を有する者への調査を進め、より確実なエビデンスを得て、健康教育へ活かしたいと考えている。

Linking JDHA to IFDH

「International Journal of Dental Hygiene」



本会では、国際歯科衛生士連盟が発行する学術誌「International Journal of Dental Hygiene(IJDH)」を購読しています。有料の部分については、IJDHを本会で閲覧することができます。国際協力委員会までお申込みください。

国際歯科衛生誌

2025年8月 第23巻3号

本号は原著論文を中心に20編で構成されています。臨床現場におけるエアロゾル汚染を観察したものや、緑茶および白茶抽出物含有マウスウォッシュの臨床的効果を検証した研究等、複数の臨床に関わる研究論文も掲載されています。世界各国で行われた口腔保健に関する幅広いテーマの研究に触れていただければと思います。ご興味のある方はこの機会にお読みください。

※最新の情報をお届けするため、Instagramで先行発信を行っています。本会公式アカウントをフォローしてご確認ください。

(公益社団法人日本歯科衛生士会 国際協力委員会 竹之内 茜)

IJDH
第23巻3号



JDHA公式
Instagram



@JDHA.OFFICIAL

理事会報告

令和7年度第3回理事会が令和7年10月5日(日)に開催された。審議事項と報告事項は次のとおりである。

審議事項

- (1) 令和7年度「災害歯科保健歯科衛生士フォーラム」実施要領(案)について
- (2) 令和7年度都道府県歯科衛生士会会長会について
- (3) 学会の連携あり方検討委員会(案)の立ち上げについて
- (4) 日本歯科衛生学会第21回学術大会について
- (5) 行政歯科衛生士研修会(令和7年11月1日開催予定)について
- (6) 東京都最低賃金の改定に係る対応について
- (7) 令和8年度都道府県歯科衛生士会への研修支援実施要領(案)について
- (8) 日本歯科医学会連合歯科衛生士学術活動支援ワーキンググループ委員について
- (9) 令和7年度歯科衛生士の研修指導者・臨床実地指導者等講習会修了者情報交換企画書(案)について
- (10) 終身会員の承認について
- (11) 新入会員の承認について
- (12) その他

報告事項

- (1) 会務報告
 - ①業務執行理事等の職務執行報告
 - ②常任委員会等の報告
- (2) 監査実施報告
- (3) 令和6年度事業報告等の提出(内閣府)
- (4) 令和8年度歯科保健関係予算概算要求

- (5) 医療安全推進週間の実施
- (6) 第46回全国歯科保健大会の開催
- (7) 後援名義使用及び生涯研修制度の研修単位認定
- (8) 歯科衛生士国家試験の施行
- (9) 学会顧問に関する申し合わせ
- (10) 「就業相談対応者講習会」参加に係る会員のメリット
- (11) 令和7年度都道府県歯科衛生士会への研修支援実施状況
- (12) 歯科医療振興財団評議員会、理事会報告
- (13) 令和7年度日本歯周病学会学会賞選考委員会報告
- (14) 2025年第1回歯学系学会社会保険委員会連合総会報告
- (15) 令和7年度日本歯周病学会歯科衛生士関連委員会報告
- (16) 令和7年度日本歯周病学会・日本臨床歯周病学会・日本歯科衛生士会合同会議報告
- (17) 歯学系学会合同脱タバコ社会実現委員会(TFDRC委員会)報告
- (18) 令和7年度歯科保健医療情報サイトの在り方検討委員会報告
- (19) 令和7年度「8020の里賞(ロツテ賞)」審査委員会報告
- (20) 全世代向けモデル歯科健康診査等実施事業第1回検討委員会報告
- (21) 第3回歯科衛生士の業務のあり方等に関する検討会報告
- (22) こども霞が関見学デー報告
- (23) 居宅療養管理指導等に係る在宅医療・介護連携の調査研究事業第1回検討委員会報告
- (24) 各種外部事業委員会委員等の推薦
- (25) 外部理事の選考の状況
- (26) その他